

# 美術館ニュース

群馬の森

no.188  
2022 4/1

## うるわしき薔薇

ルドゥーテ『バラ図譜』を中心に

2022年7月9日[土]–8月28日[日]

会場：展示室1

休館日：毎週月曜日（ただし7月18日、8月15日は開館）、7月19日（火）

開館時間：午前9時30分–午後5時（入館は午後4時30分まで）

観覧料：一般 800（640）円、大高生 400（320）円

\*（ ）内は20名以上の団体割引料金

\*中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料

主催：群馬県立近代美術館

特別協力：コノサーズ・コレクション東京



- 1.ビエール=ジョゼフ・ルドゥーテ  
《ロサ・ケンティフォリア・フォリアケア》（部分）1820年、  
多色刷点刻銅版（手彩色補助）、コノサーズ・コレクション東京
- 2.ビエール=ジョゼフ・ルドゥーテ  
《ロサ・スルフレア》1817年、  
多色刷点刻銅版（手彩色補助）、コノサーズ・コレクション東京
- 3.ビエール=ジョゼフ・ルドゥーテ  
《ロサ・ノワゼッティアナ》1820年、  
多色刷点刻銅版（手彩色補助）、コノサーズ・コレクション東京  
1-3『バラ図譜』（1817~1824年）より

- 4.二口善雄  
《キモコウバラ》1978年、  
鉛筆、水彩、千葉県立中央博物館
- 5.二口善雄  
《シカゴ・ビース》1975年、  
鉛筆、水彩、千葉県立中央博物館
- 6.石内都  
《Naked Rose #3》2005年、  
クロモジエニック・プリント、株式会社 資生堂  
© Ishiuchi Miyako

6

## 休館は7月1日まで延長

引き続き空調設備更新工事や特定天井改修工事等を行う予定です

当館は、空調設備更新工事と特定天井改修工事のため、昨年12月16日から休館しています。当初、休館は3月末までとお知らせしていましたが、4月以降も引き続き工事を行うため、本年7月1日まで休館を延長することになりました。

新型コロナウイルスのパンデミックは製造業や物流に大きなダメージを与え、その影響は私たちの日常生活にも及んでいます。空調関連機器についても例外ではありません。今後工事が進む中で機器や関連部材の納品が遅れる可能性も否定できませんが、現在までのところ熱源機器や空調機など今回更新する主な機器の搬入・設置のほか、配管・配線工事なども進んでいます〔写真1〕。

特定天井改修工事では、ホール、中央階段、2階ロビーの全面に足場を組み、既存の天井材を解体する作業が1月中旬にほぼ終わりました〔写真2〕。その後、新しい天井下地、鉄骨などを取り付ける作業が進められています。工事が終わってしまうと見た目は改修前とほぼ同じ姿に戻りますが、天井の構造はこれまでよりも地震に強くなり、安全性が高まります。

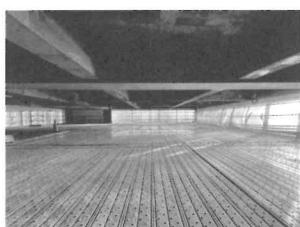
その他に、この休館期間を利用して、館内の非常用照明器具の更新も行う予定となっています。

美術館の再開は各工事の完了後、7月2日を予定しています。まずは収蔵作品によるコレクション展示、そして7月9日からは表紙で紹介している企画展「うるわしき薔薇」が始まります（いずれも予定）。その後本年度は、秋の企画展「理想の書物—英國19世紀挿絵本からプライベート・プレスの世界へ」、群馬県展（美術・書道）、冬の企画展「アートのための場所づくり 1970年代から90年代の群馬におけるアートスペース」などの展示を予定しています。

半年を超える長い休館となってしまいますが、再開後の群馬県立近代美術館の活動にどうぞご期待ください。



〔写真1〕移動式クレーンで建物上部にある空調機械室へ機器等を搬出入する作業 (2022年1月31日撮影)



〔写真2〕ホール全面に床から高さ約9mの足場を組み、吊り天井を全て撤去した様子 (2022年1月27日撮影)

## 美術館の空調の重要性—美術作品にふさわしい温湿度環境とは 松下由里

美術館の展示室について、夏は冷房が効きすぎて寒い、冬は暖かすぎる、という意見をよく聞きます。これは、作品の状態を適切に維持するため、季節に関わらず通年でほぼ同じ温湿度に設定しているせいです。国際的な博物館組織 ICOM で定めた保存環境の基準などに従って、展示室や収蔵庫等の温湿度設定を定めており、作品の素材ごとに最適な保存温湿度は異なりますが、およそ温度 20℃、湿度 55% くらいが基準です。

温湿度が変化した場合のリスクは、大きく分けて、①物質の物理的な劣化（これには、基底材である木や布や紙の繊維の組織の変化と、描画材などに含まれる様々な要素—顔料に含まれる金属や化学物質—ごとに生じる変化があります）、②湿度が高いと発生するカビや、美術作品を害する虫の発生などの外的要因によるものがあります。ここでは物質の変化について取り上げます。

物質の変化、つまり分子の状態を変化させる最大の要因は、作品に含まれる水分量です。これは相対湿度によって定まります。相対湿度は温度によって変化するため、温度も変化に対する大きな要因となります。例えば、水分が凍結して組織の結合が破壊されること、空気中の水分が結露し水滴を生じること、乾燥して作品の組織の柔軟性が失われ、折れたり崩れたりすることなどがあります。紙繊維は湿度 55% で安定しますが、高くなると強度が低下し、50% 以下に低くなると乾燥して壊れやすくなる不安定なものです。一定の範囲を超えると、セルロースや高分子などの組織自体が変化してしまいます。

絵の具に含まれる顔料は、例えば群青は 20℃ 以上で褪色し

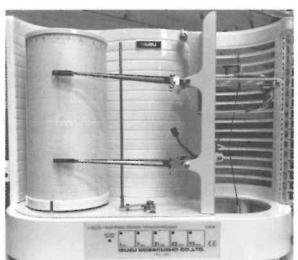
やすくなるなど高い温度に弱く、一般に湿度 60% を越えると退色が進みます。金属製顔料は湿度により化学的に変化します。

素材ごとに湿度による収縮率も異なります。紙や布や板の上に描画材を接着してあれば、例えば、紙は湿度の上昇で繊維の目が伸び、その上の描画材はそこまで伸びず、亀裂を生じて剥落したりすることが危険視されます。

美術作品は経年で劣化してゆき、これは避けることができません。劣化が進めば、作品の価値を大きく損ない、修復を行ったとしても、完全に元に戻すことはできません。しかし、適切な温湿度管理によって劣化の速度を抑制する努力をしています。

この温湿度維持に欠かせないのが、空調設備による展示室や収蔵庫の温湿度管理です。熱源や加湿器、除湿機、空気調和機、供給と吸収の循環設備からなる空調設備は中央監視システムで制御され、外気の変化等に応じて細やかに働いていますが、その維持管理には経費や労力を費やしています。そして一定の年数で機械やシステムの交換や刷新が必要になり、現在当館では本館においてこの工事を行っています。

メンテナンスや更新によって空調設備の機能を維持することは、まさに美術館にとっての最優先事項なのです。



毛髪式自記温湿度計（上段で金属の伸縮により温度を、下段で毛の伸縮により湿度を計測しています。ここでは一週間で一回転するモードを使用しています。）

# コロナ禍における美術館ボランティア活動

定松晶子

2020年1月から国内で感染が広がった新型コロナウイルスにより、人が集まる施設である美術館も大きな影響を受けました。当館も同年3月1日から6月1日まで、さらに2021年5月16日から6月13日まで、2回の臨時休館を余儀なくされました。そのうちに、文化施設の不要不急論に反対する声が上がったこともあります。現在では多くの館が対策を講じた上で開館しています。開館すれば、展示をはじめ何らかの事業を実施することになり、そこにはまた多くの課題が生じます。そんな美術館の頭を悩ませていることのひとつに、ボランティア活動があげられるでしょう。

当館のボランティア活動には、主にインフォメーション、資料整理、解説、イベントサポート、スクールサポート、茶席の6部門があります。このうちインフォメーションは、来館者の案内に使用していたカウンターが来館者の体調チェックを行う場となって活動場所を失い、また、茶席は来館者の飲食を伴うこと、水屋が狭いことなどから、感染防止のため、1回目の臨時休館から活動休止となっています。解説、イベントサポート、スクールサポートは来館者と対面、対話する活動のため、マスクやフェイスシールドを着けて行えることもあります。そもそもイベントや学校団体での来館の多くが中止され、活動の機会自体が激減しています。あまり影響なく続けられているのは、資料整理（新聞切り抜き）のみという現状です。

ボランティアへの感染を防ぐため、美術館がそれらの活動を全面休止にしてしまえば、もちろん安心です。しかし、本来ボランティア活動は、個人の意欲や熱意によって行われるもので、ボランティア本人が自分や家族の健康を守るために、自分の意志で活動を止めるのは当然自由です。ただ、人によっては、活動が楽しみであったり、生きがいであったり、健康を保つ習慣となっていることもあります。それができなくなってしまうことは、当人の生活に大きな影響を及ぼします。そのため、美術館が全面休止の判断を下してしまって良いものか、難しいところです。

また、活動を休止しなかったとしても、機会が減り、思うように活動できないことで、ボランティアのモチベーションは低下します。そうして活動を辞めてしまう人が増えると、美術館におけるボランティア活動は成り立たなくなり、結果、美術館は大きな財産を失うことになります。

ボランティア活動において何より重要なモチベーションを保とうと、他館でもオンラインでメンバー同士のコミュニケーションをはかる、勉強会や研修によりボランティアが自己研鑽に励むなど、様々な方法が試みられていることでしょう。ただ、それでは当館のボランティアの多くが原動力としている、美術館と来館者、作品と鑑賞者とをつなぐ、人対人のコミュニケーションの喜びは得られません。それは美術館にとっても重要な支えであり、今後も残していくたいものです。再びコロナ以前と同じように活動できる日が訪れる事を願いつつ、全く同じとはいからず、やり方を工夫して効果とやりがいを得、継続させていくために、今は美術館、ボランティアともに努力の時なのでしょう。



マスク、アクリルパーテーション、消毒液の対策をして行われている新聞記事のスクラップ活動

現在、友の会では令和4年度の会員を募集しています。友の会は、会費や館内ショップの利益を活用し、近代美術館を支援している団体です。会員には県内5つの美術館の観覧料が減免になるなど、様々な特典があります。

是非この機会にご入会ください。

## ■会員の種類と年会費【有効期間は4/1～翌年3/31】

一般会員 2,000円／学生会員 1,000円

家族会員【同居2人分】3,000円【3人以上は1人につき1,000円追加】

個人賛助会員【一口】10,000円／法人賛助会員【一口】20,000円

## ■観覧料が減免となる美術館

群馬県立近代美術館・群馬県立館林美術館【両館あわせて年間2回無料、ほか半額】

高崎市美術館・高崎市タワー美術館・高崎市山田かまち美術館【団体割引相当額】

## ■主な事業

\*展覧会・教育普及事業・広報への支援・協力のほか、コンサートや講演会等を開催。

\*会報の発行、ミュージアム・ツアーなど、会員のための事業を実施。

(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため変更になる場合があります)

お問い合わせ：群馬県立近代美術館 友の会 TEL 027-346-5560(代表) / FAX 027-346-4064

## 友の会だより



◆ミュージアム・ショップより  
休館中、ショップでは一部商品の通信販売を行っております。申込方法など詳しくは美術館HPの利用案内>ショップ>主要商品>ショップ通信販売をご確認ください。写真はメモリー・アートゲーム。

## 作品ひとつ

太田佳鈴

夏、「生誕100年 塩原友子 紙の命・線の力」(2021.7.3[土]～8.22[日])と題し、塩原友子の特集展示を展示室6、および山種記念館(展示室7)で行なった。当館では現在、塩原の作品23点を収蔵している。2021年は生誕100年にあたる記念の年であり、今回は画業初期の穏やかな女性像から、新たな表現を試みた時期の和紙を貼り重ねたコラージュ作品、板を切り抜き、貼り、厚みで生まれる線や影を意識した作品、そして後期の絵具を彫刻刀で削った力強い線で故郷の山々を描いた作品など15点を紹介した。

塩原友子は、大正10(1921)年に前橋市に生まれた。群馬県女子師範学校(現在の群馬大学共同教育学部)を卒業して10年程教職に就いた後、画家を志して上京。昭和25(1950)年には現在の武蔵野美術大学へ進み、後に日本画院創立者の望月春江に師事したが、塩原に最も大きな影響をもたらしたのは、ジャンルにとらわれない表現で知られる井上三綱との出会いであった。以降、幾何学的な表現や多様な技法を用いて、伝統的な日本画を超えて、自由な画風へと展開していった。

特に「線」へのこだわり、「線」の奥行、強さの探求は塩原の特徴の一つである。曼荼羅とは仏の教えや世界、悟りの境地を表したもので、古来、仏の体系的な配列や幾何学的な図柄、そして本地垂迹思想から社寺や神域、神使を描く作例がある。《赤城山曼荼羅図屏風》では曼荼羅の世界と、馴染み深い故郷の山、群馬を象徴する上毛三山の一つである赤城山の自然を重ね合わせた。灰白と混ざり合う青や黄、桃の色調による画面は静謐を湛え、塗り重ねた絵具を削り生み出した線は強い存在感でモチーフの輪郭を際立たせる。古地図を参考にしたという俯瞰する構図、すわり霞を思わせる金泥の横線など、古典のパロディを意識したとの指摘もあるが、伝統を踏まえた上で、強い「線」への志向は塩原独自の世界を確立している。

また、塩原は教育者でもあった。昭和42(1967)年から東京純心女子短期大学で教鞭を執り、昭和55(1980)年に帰郷すると「前橋日本画創作会」(後の「燐燐会」)を結成、県美術会で活躍し、高崎芸術短期大学や群馬大学でも指導した。群馬の美術界に長く寄与し、平成30(2018)年に96歳で没した。

## 休館中の活動

### 学校・幼稚園・保育園・公民館の皆様へ 貸出用鑑賞サポートツールのご案内

当館では、来館できなくても当館の所蔵作品鑑賞を楽しむことのできる教材を作成しています。ゲームをしながら作品に親しめるアートカードや人気作品の複製画ポスター、色や形を組み合わせて様々な作品を作るアートパズルなど、すべて貸出ができますので、授業やその他色々な活動にお役立てください。

※教材は、美術館まで取りに来ていただくか、着払いの宅急便でお送りすることができます。

また、当館スタッフが出向き、アートカードや複製画ポスターを活用して会話しながら鑑賞体験ができる「出張授業」を実施しています。派遣費用は必要ありません。ぜひこちらもご利用ください。

ご利用は、下記までお電話でお問い合わせください。

問い合わせ:群馬県立近代美術館／教育普及係 027-346-5560



塩原友子《赤城山曼荼羅図屏風》  
昭和60(1985)年 紙本着色・四曲一隻屏風 169.5×302.0cm



貸出用鑑賞サポートツールの一部。詳しくは当館HPをご覧ください



「複製画ポスター」や「ホントのサイズの複製画」を使って作品鑑賞